

沖縄「日本復帰44年」を問う

「うちなーんちゅ うしえてー ないびらんど」※

日時 5月15日(日) 午後2時～アピール 午後3時～デモ行進

場所 新宿駅東口 アルタ前

沖縄からの訴え

たまき あい

玉城

愛

さん SEALDs RYUKYU(シールズ琉球)/島ぐるみ会議・名護 共同代表
名護市にある名桜大学4年次在籍。沖縄・うるま市出身。

安倍政権の強権を振りかざした愚かな代執行。「和解」は時間稼ぎの猿芝居だ。

いま、辺野古現場は、埋め立てに向けた一連の工事は中止されている。

だが、油断してはいけない。

相手は、破廉恥な国家という暴力機構だ。

肝心なのは、私たちは工事が中止されているこの時間に、何を為すべきかだ。

日本の敗戦から71年、

昭和天皇によってアメリカに売り渡されたサンフランシスコ講和条約から64年、

膨大な在日米軍基地をしわ寄せした「日本復帰」という名の沖縄島軍事基地化から44年、

普天間基地を返すから、代わりに辺野古に新しい基地を造るからね～ から20年、

そして、再びの軍事要塞島としての宮古島・石垣島・与那国島への日本軍の上陸のたくらみ。

いつまでつづくぬかるみぞ。

しかし、あきらめない現場がある。県知事を支える世論がある。

その沖縄からの訴えと新しい息吹きを5月15日、受け止めようではないか。

気をゆるめるな！

※「沖縄人を侮ってはなりませんよ」という意味。翁長知事が昨年5月17日の県民大会の発言で締めくくった言葉。



昨年の5・15行動(新宿駅周辺)

主催 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック (電話090-3910-4140)